

## 1 人口動態の概要

人口動態統計は、戸籍法及び死産の届出に関する規程により、出生、死亡、婚姻、離婚及び死産の各届出書から人口動態調査票を作成し、これをもとに人口動態事象を統計的に把握しているものです。

この統計の数値は、平成16年1月1日から平成16年12月31日までに事件の発生したものを集計したものです。

本県の平成16年の人口動態の概況は表1のとおりです。

表1 平成16年の人口動態統計概況（ ）内全国 —前年との比較—

	実 数		率		16年平均発生間隔
	16年	15年	16年	15年	
出 生	11,749 (1,110,721)	12,137 (1,123,610)	8.3 (8.8)	8.5 (8.9)	44分51秒 (28秒)
合計特殊出生率	——	——	1.16 (1.29)	1.18 (1.29)	——
死 亡	11,124 (1,028,602)	10,795 (1,014,951)	7.8 (8.2)	7.6 (8.0)	47分23秒 (31秒)
自然増加	625 (82,119)	1,342 (108,659)	0.4 (0.7)	0.9 (0.9)	——
乳児死亡	41 (3,122)	33 (3,364)	3.5 (2.8)	2.7 (3.0)	8日22時間14分38秒 (2時間48分49秒)
新生児死亡	18 (1,622)	15 (1,879)	1.5 (1.5)	1.2 (1.7)	20日8時間 (5時間24分56秒)
死 産	333 (34,365)	378 (35,330)	27.6 (30.0)	30.2 (30.5)	1日2時間22分42秒 (15分20秒)
周産期死亡	62 (5,541)	48 (5,929)	5.3 (5.0)	3.9 (5.3)	5日21時間40分39秒 (1時間35分7秒)
婚 姻	7,157 (720,417)	7,320 (740,191)	5.0 (5.7)	5.1 (5.9)	1時間13分38秒 (44秒)
離 婚	2,740 (270,804)	2,955 (283,854)	1.93 (2.15)	2.07 (2.25)	3時間12分21秒 (1分57秒)

○ 自然増加＝年間出生数－年間死亡者数

○ 出生、死亡、自然増加、婚姻、離婚は日本人人口1,000人に対する発生率  
乳児死亡、新生児死亡、周産期死亡は年間出生数1,000件に対する発生率  
死産は年間出産件数（出生＋死産）1,000件に対する発生率

## (1) 出生（出生数は減少）

出生数は11,749人で、前年の12,137人より388人減少し、出生率（人口千対）は8.3で、前年の8.5を下回りました。合計特殊出生率は1.16で、前年の1.18を下回りました。（表1）

なお、出生率は全国第34位で、合計特殊出生率は全国第45位です（どちらも数値が高い順）。

奈良県の出生率は、戦後昭和24年ごろまで人口千人に対し全国平均を下回る26～30人前後で推移していましたが、その後減少の一途をたどり、昭和36年にはそれまでの最低の率である14.7を記録しました。その後、「ひのえうま」の年であった昭和41年を例外として、昭和37年から出生数、出生率ともやや上昇に転じ、特に昭和46年～48年にかけては、出生率が19以上を記録しました。これは、戦後のベビーブーム期に生まれた女性が結婚、出産したことにより第二次ベビーブームとなったためです。その後、昭和49年以降低下に転じ、平成3年まで減少傾向を続けていましたが、平成4年に9.6と前年を0.1上回りました。以降平成6年まで同率で推移しましたが、平成7年には9.4と0.2下回り、以降増減を繰り返していましたが、平成13年以降減少が続いています。出生率の年次推移は図1のとおりです。また、市町村別の出生率は図2のとおりです。

ちなみに市部では出生率8.6、郡部では7.3となっています。

出生時の体重が2,500g以下（未満）の低体重児の出生割合を年次別にみると表2のとおりです。

また、合計特殊出生率は、昭和40年頃をピークに年々減少傾向にあり、平成16年は1.16で、平成15年の1.18を下回りました。（表3・図3）

## (2) 死亡（死亡数は増加）

死亡数は11,124人で前年の10,795人から329人増加し、死亡率（人口千対）は7.8で、前年の7.6を上回りました。（表1）なお、死亡率は全国第39位です（数値が高い順）。

奈良県の死亡率は、昭和13年から昭和26年にかけて、人口千人に対し10以上の率で全国と比べても高い率で推移してきました。昭和22年の死亡率（人口千対）15.6を最高に徐々に下降し、昭和42年には7.5とおおよそ20年の間に死亡率は半減しました。しかし、平成元年の6.2を最低に、平成2年の6.5から平成5年の6.9へと増加傾向をたどりました。それ以降は平成13年まで増減を繰り返した後、平成14年以降増加傾向にあります。（図1）

なお、市町村別の死亡率は図2のとおりです。

### ①死因別死亡

死亡者を死因別にみると、前年と同様に悪性新生物が死亡数3,655人で前年比177人増、死亡率（人口10万対）256.9（死亡率13.3<sup>ポ</sup> イト増）で26年連続第1位になりました。第2位は、昨年同様に心疾患で死亡数1,809人、死亡率127.1で前年比33人減（死亡率1.9<sup>ポ</sup> イト減）でした。

第3位は、脳血管疾患で死亡数1,251人、死亡率87.9で前年比7人減（死亡率0.2<sup>ポ</sup> イト減）となりました。これら三大生活習慣病（成人病）で全死亡者の60.4%（平成15年61.0%）を占めています。

死因別の死亡順位は表4及び図4のとおりです。また、年次別死亡順位は表5のとおりです。

なお、男女別の死因についても、男女とも第1位が悪性新生物、第2位が心疾患、第3位が脳血管疾患です。

主要死因死亡者数及び死亡率の推移は、表6及び図5のとおりです。表6及び図5をみると、心疾患が近年著しく減少しています。これは、平成7年1月から死亡診断書の様式改正により「死亡の原因」欄に「疾患の終末期の状態としての心不全、呼吸不全等は書かないください。」との注書きが加えられたことによるものと考えられます。

年齢階級別に死因をみると、0歳では循環器系先天奇形が1位を占め、5歳～9歳では不慮の事故が1位となっています。また、15～34歳までは自殺及び不慮の事故が上位を占めており、35～89歳は、悪性新生物が第1位です。90歳以上では、心疾患が第1位となっています。

（表7）

図1 出生・死亡の人口千対比推移(昭和34年～平成16年)

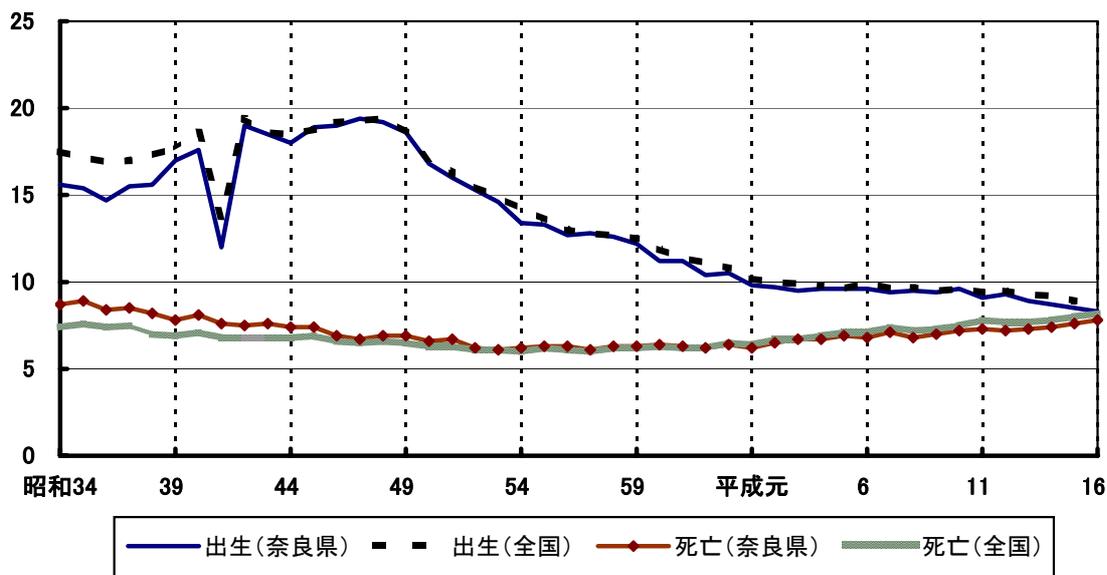


表2 出生児の平均体重及び2,500g以下(未満)の出生数と割合

年次	総 数			男			女		
	平均 体重 (kg)	2,500g以下(未満)の出生		平均 体重 (kg)	2,500g以下(未満)の出生		平均 体重 (kg)	2,500g以下(未満)の出生	
		実 数	出生数に 対する割 合(%)		実 数	出生数に 対する割 合(%)		実 数	出生数に 対する割 合(%)
50	3.22	883	5.0	3.27	429	4.7	3.18	454	5.2
55	3.20	838	5.3	3.24	384	4.8	3.15	454	5.8
60	3.18	772	5.3	3.22	365	4.8	3.13	407	5.7
61	3.17	796	5.4	3.21	374	5.0	3.12	422	5.9
62	3.15	771	5.6	3.20	353	5.0	3.11	418	6.2
63	3.15	776	5.5	3.19	396	5.4	3.12	380	5.6
元	3.14	804	6.0	3.17	388	5.6	3.10	416	6.4
2	3.12	831	6.2	3.16	388	5.7	3.08	443	6.8
3	3.11	816	6.2	3.15	378	5.6	3.06	438	6.8
4	3.10	852	6.4	3.14	396	5.8	3.05	456	7.1
5	3.06	869	6.5	3.06	409	5.9	3.06	460	7.0
6	3.09	865	6.4	3.13	394	5.7	3.04	471	7.1
7	3.08	890	6.7	3.12	405	5.9	3.02	485	7.5
8	3.07	946	6.9	3.12	407	5.8	3.02	539	8.1
9	3.06	1,051	7.8	3.10	469	6.8	3.02	582	9.0
10	3.05	1,061	7.7	3.10	467	6.6	3.01	594	8.9
11	3.04	1,027	7.8	3.08	477	7.0	3.01	550	8.6
12	3.04	1,112	8.4	3.08	540	7.8	2.99	572	9.0
13	3.03	1,089	8.5	3.07	484	7.4	2.99	605	9.7
14	3.03	1,043	8.4	3.07	496	7.7	2.99	547	9.1
15	3.03	1,048	8.6	3.07	477	7.5	2.98	571	9.9
16	3.02	1,048	8.9	3.07	459	7.7	2.98	589	10.2

※ 平成6年以前は2,200g未満

図2 市町村別出生率・死亡率 平成16年

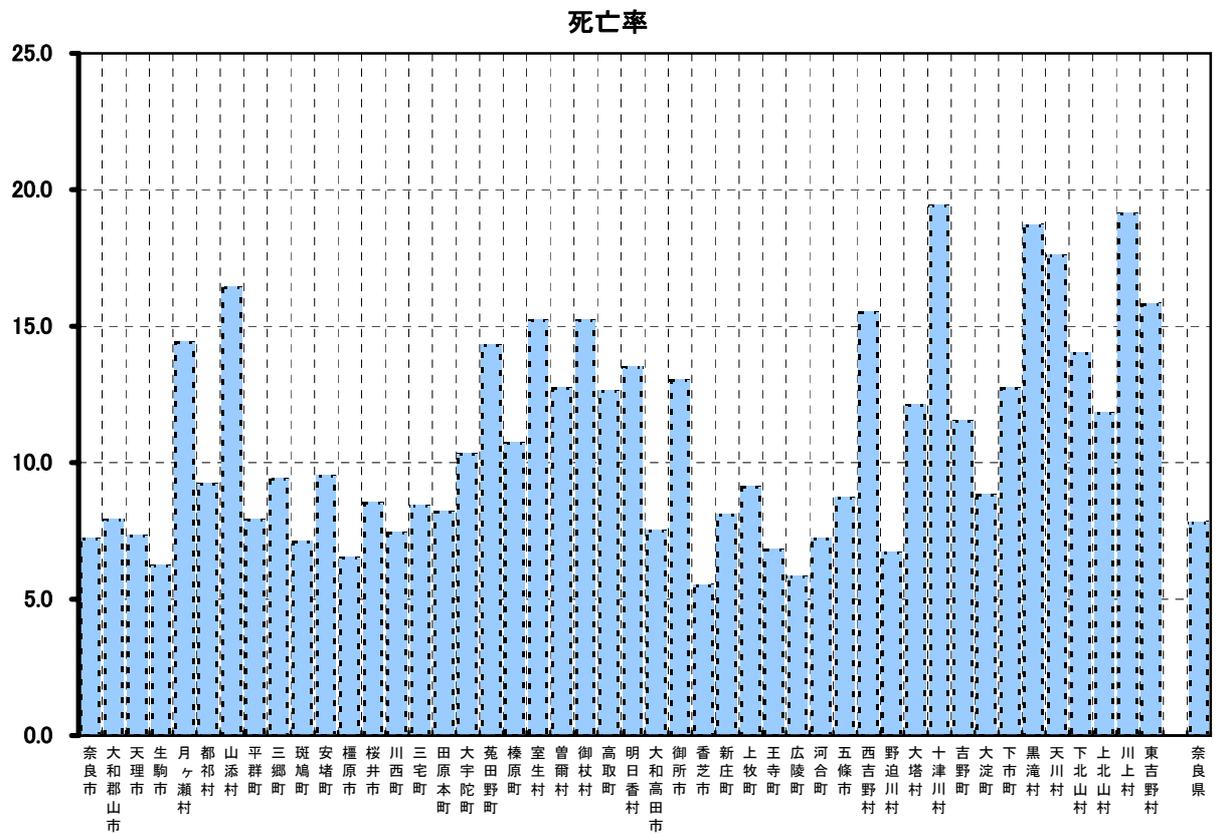
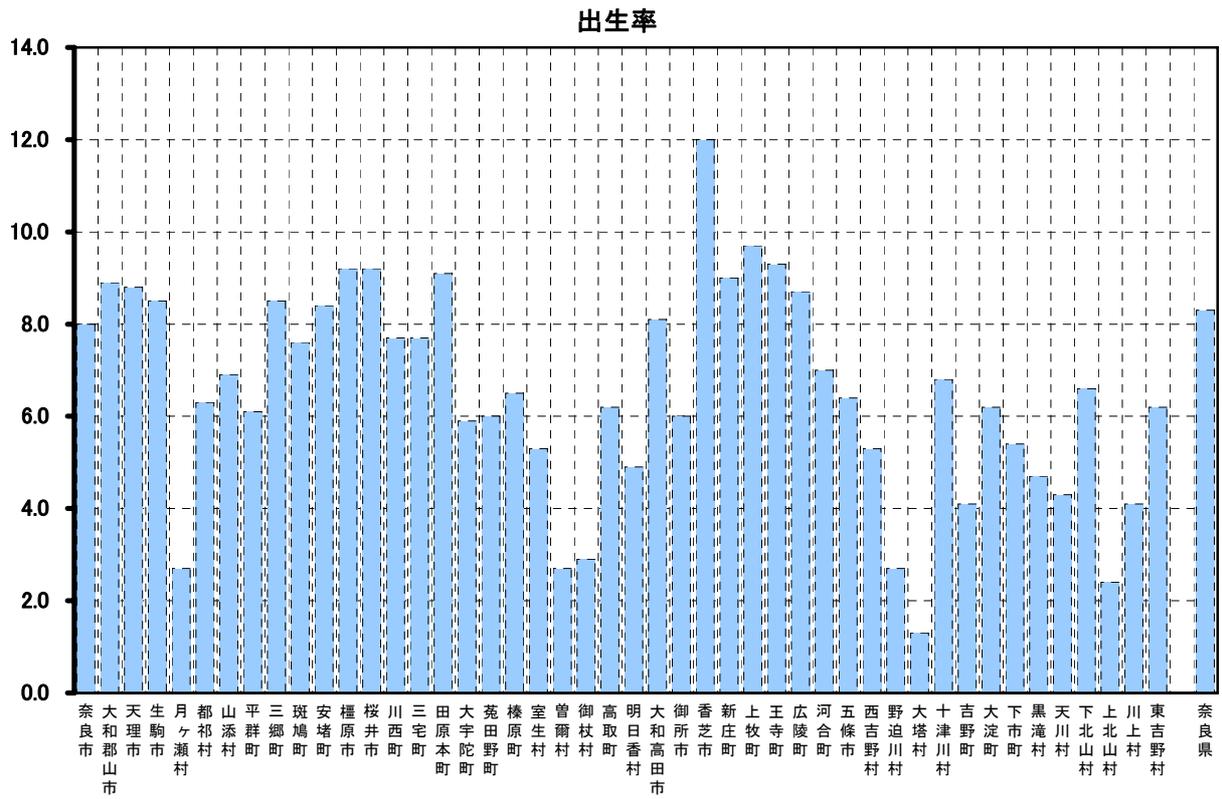


表3 合計特殊出生率の推移

	平元	平 2	平 3	平 4	平 5	平6	平7	平8	平9	平10	平11	平12	平13	平14	平15	平16
奈良県	1.49	1.49	1.45	1.42	1.39	1.37	1.36	1.34	1.30	1.30	1.23	1.30	1.22	1.21	1.18	1.16
全 国	1.57	1.54	1.53	1.50	1.46	1.50	1.42	1.43	1.39	1.38	1.34	1.36	1.33	1.32	1.29	1.29

図3 合計特殊出生率の推移(平成元年～平成16年)

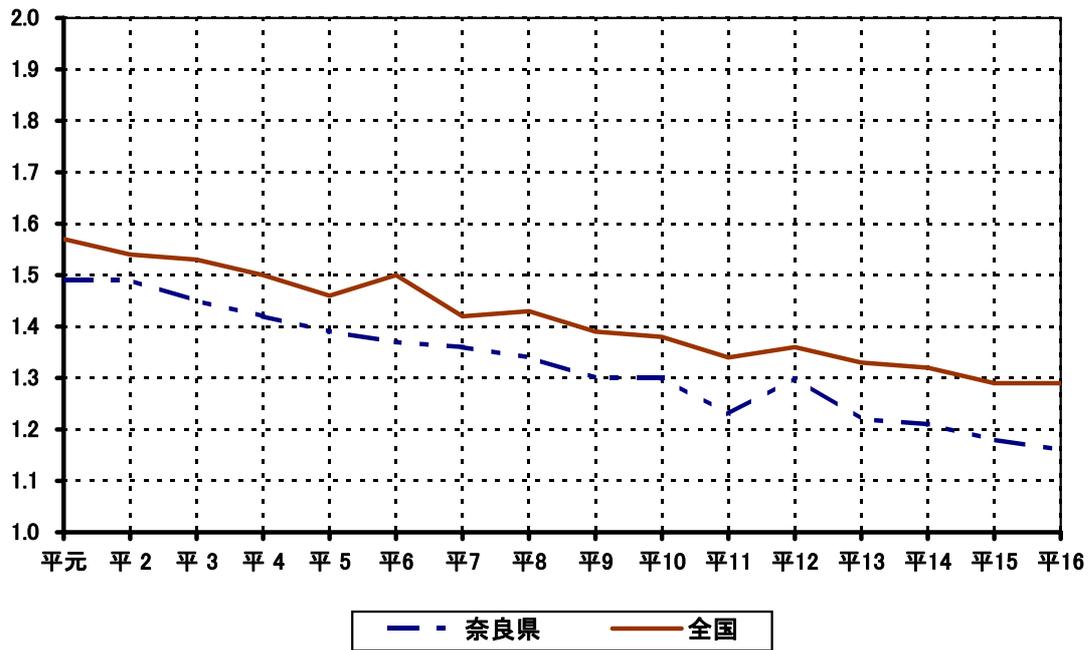


表4 死亡順位(全死亡第1位より第10位)

奈良県 平成16年

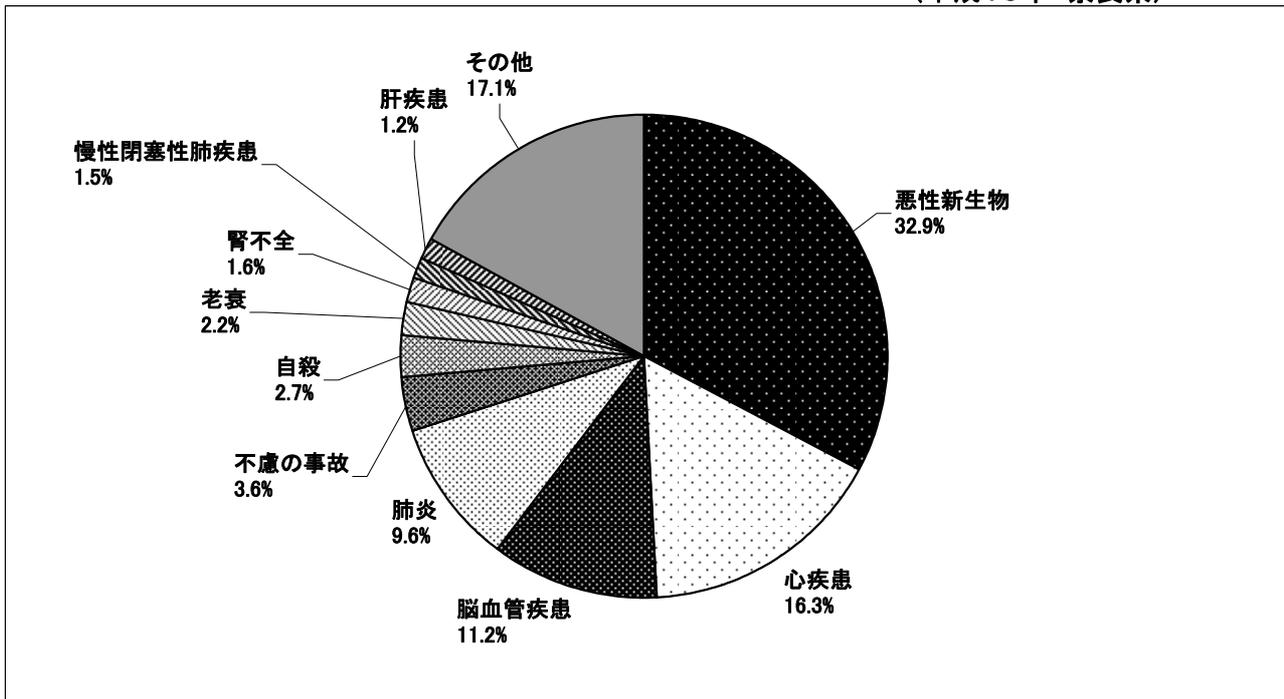
順位	総計			男			女		
	死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合
総数		人 11,124	100.0%		人 5,912	100.0%		人 5,212	100.0%
1	悪性新生物	3,655	32.9%	悪性新生物	2,255	38.1%	悪性新生物	1,400	26.9%
2	心疾患	1,809	16.3%	心疾患	844	14.3%	心疾患	965	18.5%
3	脳血管疾患	1,251	11.2%	脳血管疾患	561	9.5%	脳血管疾患	690	13.2%
4	肺炎	1,072	9.6%	肺炎	543	9.2%	肺炎	529	10.1%
5	不慮の事故	398	3.6%	不慮の事故	225	3.8%	老衰	200	3.8%
6	自殺	303	2.7%	自殺	212	3.6%	不慮の事故	173	3.3%
7	老衰	250	2.2%	慢性閉塞性肺疾患	119	2.0%	腎不全	95	1.8%
8	腎不全	180	1.6%	肝疾患	91	1.5%	自殺	91	1.7%
9	慢性閉塞性肺疾患	172	1.5%	腎不全	85	1.4%	糖尿病	62	1.2%
10	肝疾患	137	1.2%	糖尿病	71	1.2%	大動脈瘤及び解離	55	1.1%
	その他	1,897	17.1%	その他	906	15.3%	その他	952	18.3%

全国 平成16年

順位	総計			男			女		
	死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合	死因	死亡数	割合
総数		人 1,028,602	100.0%		人 557,097	100.0%		人 471,505	100.0%
1	悪性新生物	320,358	31.1%	悪性新生物	193,096	34.7%	悪性新生物	127,262	27.0%
2	心疾患	159,625	15.5%	心疾患	77,465	13.9%	心疾患	82,160	17.4%
3	脳血管疾患	129,055	12.5%	脳血管疾患	61,547	11.0%	脳血管疾患	67,508	14.3%
4	肺炎	95,534	9.3%	肺炎	51,306	9.2%	肺炎	44,228	9.4%
5	不慮の事故	38,193	3.7%	不慮の事故	23,667	4.2%	老衰	17,954	3.8%
6	自殺	30,247	2.9%	自殺	21,955	3.9%	不慮の事故	14,526	3.1%
7	老衰	24,126	2.3%	肝疾患	10,705	1.9%	腎不全	10,311	2.2%
8	腎不全	19,117	1.9%	慢性閉塞性肺疾患	10,187	1.8%	自殺	8,292	1.8%
9	肝疾患	15,885	1.5%	腎不全	8,806	1.6%	糖尿病	5,943	1.3%
10	慢性閉塞性肺疾患	13,444	1.3%	糖尿病	6,694	1.2%	肝疾患	5,180	1.1%
	その他	183,018	17.8%	その他	91,669	16.5%	その他	88,141	18.7%

図4 死亡構成の順位

(平成16年 奈良県)



(平成16年 全国)

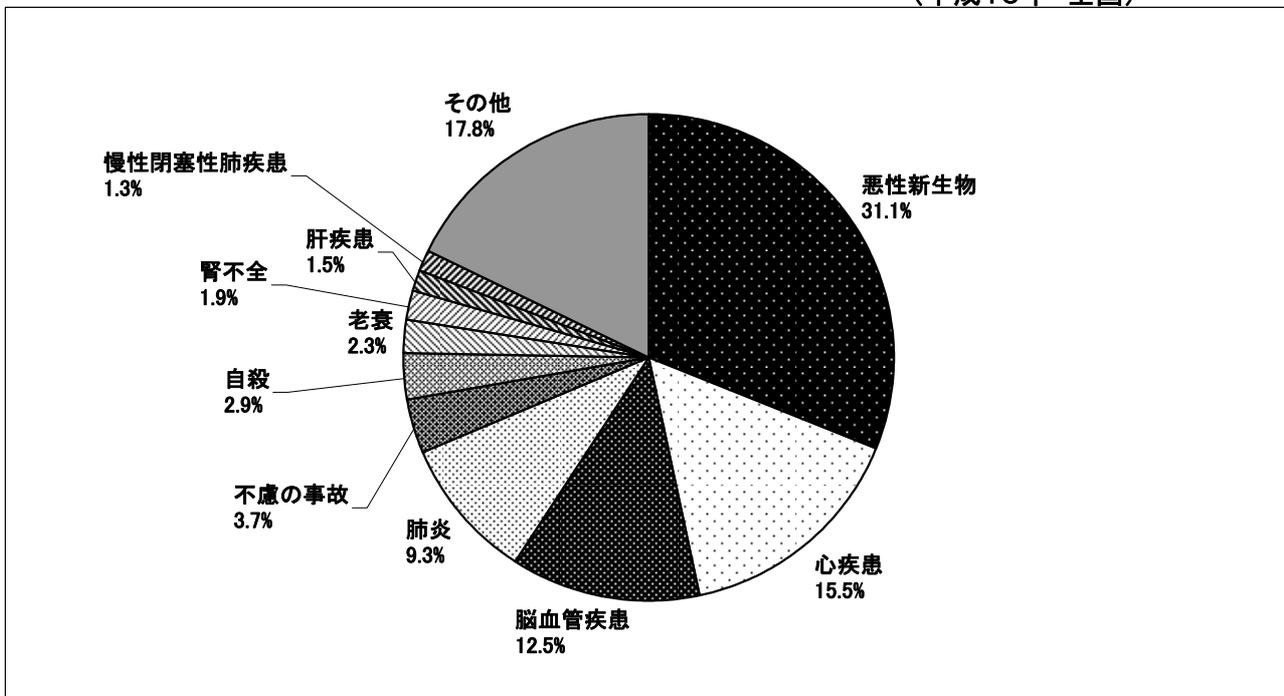


表5 死因順位 年次別

	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
	死 因	死亡率	死 因	死亡率	死 因	死亡率	死 因	死亡率	死 因	死亡率
昭和40	中神系血管損傷	178.2	悪性新生物	144.0	心疾患	90.2	老 衰	53.1	不慮の事故	41.6
41	〃	174.8	〃	150.8	〃	75.2	不慮の事故	44.9	老 衰	43.4
42	〃	172.8	〃	143.6	〃	87.8	老 衰	46.0	不慮の事故	35.8
43	脳血管疾患	175.8	〃	144.0	〃	94.1	〃	41.9	〃	35.6
44	〃	166.4	〃	147.9	〃	98.2	〃	39.0	〃	37.1
45	〃	169.5	〃	140.9	〃	99.4	〃	43.3	〃	36.7
46	〃	158.7	〃	137.9	〃	95.5	不慮の事故	37.2	老 衰	32.2
47	〃	159.2	〃	140.7	〃	91.1	〃	31.9	〃	29.7
48	〃	165.2	〃	138.0	〃	101.4	〃	31.5	〃	30.3
49	〃	156.0	〃	143.3	〃	109.3	肺炎及び気管支炎	33.2	〃	28.4
50	〃	149.5	〃	141.1	〃	103.2	〃	29.7	〃	28.9
51	〃	154.6	〃	137.3	〃	108.7	〃	31.9	〃	27.4
52	〃	145.2	〃	143.4	〃	96.3	老衰	28.0	不慮の事故	25.9
53	〃	140.8	〃	140.6	〃	104.9	肺炎及び気管支炎	24.1	老 衰	22.9
54	悪性新生物	143.2	脳血管疾患	140.0	〃	98.6	老 衰	29.5	肺炎及び気管支炎	24.5
55	〃	146.7	〃	131.8	〃	110.3	〃	30.4	〃	28.5
56	〃	146.8	〃	134.7	〃	112.4	〃	29.8	〃	27.0
57	〃	148.5	〃	119.3	〃	112.9	〃	29.9	〃	26.9
58	〃	148.9	〃	126.5	〃	114.4	肺炎及び気管支炎	31.3	老 衰	29.2
59	〃	160.8	〃	121.6	〃	114.2	〃	30.5	〃	28.7
60	〃	163.4	心疾患	120.5	脳血管疾患	119.2	〃	37.7	〃	26.9
61	〃	158.4	〃	120.8	〃	109.7	〃	40.1	〃	27.8
62	〃	162.6	〃	120.2	〃	108.2	〃	38.2	〃	26.6
63	〃	171.1	〃	132.6	〃	104.3	〃	45.3	〃	28.0
平成元	〃	171.0	〃	131.1	〃	89.1	〃	44.4	〃	26.2
2	〃	178.2	〃	141.1	〃	92.4	〃	51.7	〃	25.1
3	〃	183.6	〃	144.3	〃	84.5	〃	59.3	不慮の事故	23.4
4	〃	187.2	〃	153.0	〃	80.8	〃	59.8	〃	27.4
5	〃	193.3	〃	152.2	〃	89.0	〃	62.2	〃	23.6
6	〃	195.9	〃	128.6	〃	89.3	〃	67.2	〃	26.4
7	〃	210.6	〃	109.4	〃	106.8	〃	62.1	〃	30.1
8	〃	208.7	〃	109.0	〃	99.6	〃	56.4	〃	32.8
9	〃	216.9	〃	112.7	〃	95.4	肺 炎	64.1	〃	28.6
10	〃	226.8	〃	119.9	〃	92.9	〃	62.1	〃	27.4
11	〃	222.4	〃	118.8	〃	97.8	〃	70.2	〃	30.3
12	〃	228.7	〃	116.8	〃	91.0	〃	61.2	〃	29.9
13	〃	234.1	〃	117.2	〃	85.2	〃	66.8	〃	29.6
14	〃	243.6	〃	120.9	〃	82.8	〃	70.6	〃	29.4
15	〃	243.6	〃	129.0	〃	88.1	〃	72.8	〃	28.1
16	〃	256.9	〃	127.1	〃	87.9	〃	75.3	〃	28.0

(注) 中神系血管損傷 胃炎及び大腸炎 新生児疾患  
 〃 〃 〃 〃 〃  
 中枢神経系の血管損傷 胃炎、十二指腸炎、腸炎及び大腸炎 その他の新生児固有の疾患及び未熟児

表5のつづき

(死亡率：人口10万対)

第6位		第7位		第8位		第9位		第10位	
死 因	死亡率	死 因	死亡率	死 因	死亡率	死 因	死亡率	死 因	死亡率
肺炎及び気管支炎	36.4	全結核	23.6	高血圧症	22.2	胃炎及び大腸炎	16.1	自殺	15.1
”	29.5	”	21.3	”	19.1	”	15.2	”	14.9
”	24.5	高血圧症	19.6	全結核	18.7	胃及び十二指腸の潰瘍	13.9	新生児疾患	13.5
”	30.7	全結核	20.0	高血圧症	16.8	自殺	16.2	胃腸炎	15.9
”	27.8	”	19.8	”	16.9	”	14.2	”	12.8
”	33.1	”	16.8	”	15.7	肝硬変	14.2	自殺	12.3
”	27.4	自殺	15.7	”	14.2	”	12.4	全結核	12.0
”	26.7	高血圧症	18.3	自殺	15.2	”	12.2	糖尿病	9.8
”	29.5	”	16.3	”	14.7	”	12.1	全結核	11.7
不慮の事故	25.3	”	19.7	”	16.1	”	12.5	糖尿病	10.8
”	28.8	”	20.7	”	16.1	”	11.9	”	11.9
”	25.4	”	18.2	”	18.0	”	15.4	”	12.8
肺炎及び気管支炎	25.7	”	17.9	肝硬変	14.1	自殺	13.7	”	9.6
不慮の事故	20	”	18.1	自殺	16.5	肝硬変	11.8	”	8.4
”	22.2	自殺	18.9	高血圧性疾患	16.9	”	15.5	循環系その他の疾患	10.1
”	24.2	”	16.9	”	14.5	”	13.7	”	11.1
”	23.7	”	17.0	”	14.4	”	14.4	”	9.9
”	22.2	”	16.3	肝硬変	12.3	高血圧性疾患	12.2	腎炎・ネフローゼ	10.5
”	25.7	”	18.4	”	13.7	腎炎・ネフローゼ	11.3	高血圧性疾患	11.2
”	22.3	”	15.4	”	12.5	”	12.3	”	11.7
”	24.3	”	17.4	”	14.0	高血圧性疾患	11.0	腎炎・ネフローゼ	10.1
”	23.9	”	17.1	”	15.4	腎炎・ネフローゼ	11.3	高血圧性疾患	10.7
”	23.3	”	16.3	腎炎・ネフローゼ	13.1	肝硬変	12.8	”	9.5
”	20.2	”	16.7	肝硬変	12.8	腎炎・ネフローゼ	12.8	糖尿病	8.3
”	24.2	”	14.4	腎炎・ネフローゼ	14.1	肝硬変	10.9	高血圧性疾患	8.7
”	23.9	肝硬変	13.7	自殺	13.2	腎炎・ネフローゼ	12.7	”	8.8
老 衰	23.2	腎炎・ネフローゼ	14.8	”	13.6	肝硬変	12.5	糖尿病	7.1
”	21.7	”	14.5	”	12.2	”	11.5	”	8.1
”	21.8	”	14.8	”	13.6	”	11.5	”	8.5
”	24.5	”	13.5	”	13.2	”	12.2	”	7.2
”	19.9	自殺	13.5	肝疾患	13.2	糖尿病	12.6	腎不全	11.7
”	17.7	”	12.6	”	12.9	腎不全	11.8	慢性閉塞性肺疾患	10.1
”	18.9	”	14.8	腎不全	13.2	肝疾患	12.3	”	9.3
自 殺	23.0	老 衰	18.8	”	12.4	”	12.4	”	10.3
”	21.4	”	18.3	”	13.5	”	11.2	”	10.7
”	17.8	”	16.5	肝疾患	13.5	腎不全	13.2	”	11.9
”	21.2	”	17.9	慢性閉塞性肺疾患	13.3	”	11.9	肝疾患	10.7
”	18.0	”	16.3	”	12.4	”	12.4	”	10.6
”	20.7	”	16.3	腎不全	14.9	慢性閉塞性肺疾患	12.0	”	10.6
”	21.3	”	17.6	”	12.6	”	12.1	”	9.6

表6 主要死因死亡者数 年次別

	悪性新生物				脳血管疾患				心疾患			
	奈良県		全 国		奈良県		全 国		奈良県		全 国	
	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率	数	率
昭和49	1,503	143.3	133,751	122.2	1,635	156.0	178,365	163.0	1,147	109.3	98,251	89.8
50	1,511	141.1	136,383	122.6	1,602	149.5	174,367	156.7	1,105	103.2	99,226	89.2
51	1,501	137.3	140,893	125.3	1,590	154.6	173,745	154.5	1,118	108.7	103,638	92.2
52	1,607	143.4	145,772	128.4	1,626	145.2	170,029	149.8	1,079	96.3	103,564	91.2
53	1,616	140.6	150,336	131.3	1,617	140.8	167,452	146.2	1,204	104.9	106,786	93.3
54	1,687	143.2	156,661	135.7	1,648	140.0	158,974	137.7	1,161	98.6	111,938	96.9
55	1,765	146.7	161,764	139.1	1,585	131.8	162,317	139.5	1,327	110.3	123,505	106.2
56	1,799	146.8	166,399	142	1,651	134.7	157,351	134.3	1,378	112.4	126,012	107.5
57	1,850	148.5	170,130	144.2	1,487	119.3	147,537	125.0	1,406	112.9	125,905	106.7
58	1,883	148.9	176,206	148.3	1,599	126.5	145,880	122.8	1,447	114.4	132,244	111.3
59	2,062	160.8	182,280	152.5	1,559	121.6	140,093	117.2	1,464	114.2	136,162	113.9
60	2,122	163.4	187,714	156.1	1,548	120.5	134,994	112.2	1,565	119.2	141,097	117.3
61	2,078	158.4	191,654	158.5	1,439	120.8	129,298	106.9	1,586	109.7	142,581	117.9
62	2,163	162.8	199,563	164.2	1,439	108.2	123,626	101.7	1,598	120.2	143,909	118.4
63	2,302	171.1	205,470	168.4	1,403	104.3	128,695	105.5	1,783	132.6	157,920	129.4
平成元	2,329	171.0	212,625	173.6	1,214	89.1	120,652	98.5	1,786	131.1	156,831	128.1
2	2,436	178.0	217,413	177.2	1,263	92.3	121,944	99.4	1,929	141.0	165,478	134.8
3	2,548	184.4	223,727	181.7	1,172	84.8	118,448	96.2	2,002	144.9	168,878	137.2
4	2,610	187.2	231,917	187.8	1,127	80.8	118,058	95.6	2,133	153.0	175,546	142.2
5	2,709	193.3	235,707	190.4	1,247	89.0	118,794	96.0	2,133	152.2	180,297	145.6
6	2,772	195.9	243,670	196.4	1,264	89.3	120,239	96.9	1,819	128.6	159,579	128.6
7	2,994	210.6	263,022	211.6	1,519	106.8	146,552	117.9	1,555	109.4	139,206	112.0
8	2,986	208.7	271,183	217.5	1,425	99.6	140,366	112.6	1,560	109.0	138,229	110.8
9	3,114	216.9	275,413	220.4	1,370	95.4	138,697	111.0	1,619	112.7	140,174	112.2
10	3,264	226.8	283,921	226.7	1,337	92.9	137,819	110.0	1,726	119.9	143,120	114.3
11	3,205	222.4	290,556	231.6	1,409	97.8	138,989	110.8	1,712	118.8	151,079	120.4
12	3,280	228.7	295,484	235.2	1,305	91	132,529	105.5	1,676	116.8	146,741	116.8
13	3,357	234.1	300,658	238.8	1,222	85.2	131,856	104.7	1,680	117.2	148,292	117.8
14	3,483	243.6	304,568	241.7	1,184	82.8	130,257	103.4	1,729	120.9	152,518	121.0
15	3,478	243.6	309,543	245.4	1,258	88.1	132,067	104.7	1,842	129.0	159,545	126.5
16	3,655	256.9	320,358	253.9	1,251	87.9	129,055	102.3	1,809	127.1	159,625	126.5

図5 主要死因死亡率の年次推移(人口10万対) (昭和54年~平成16年)

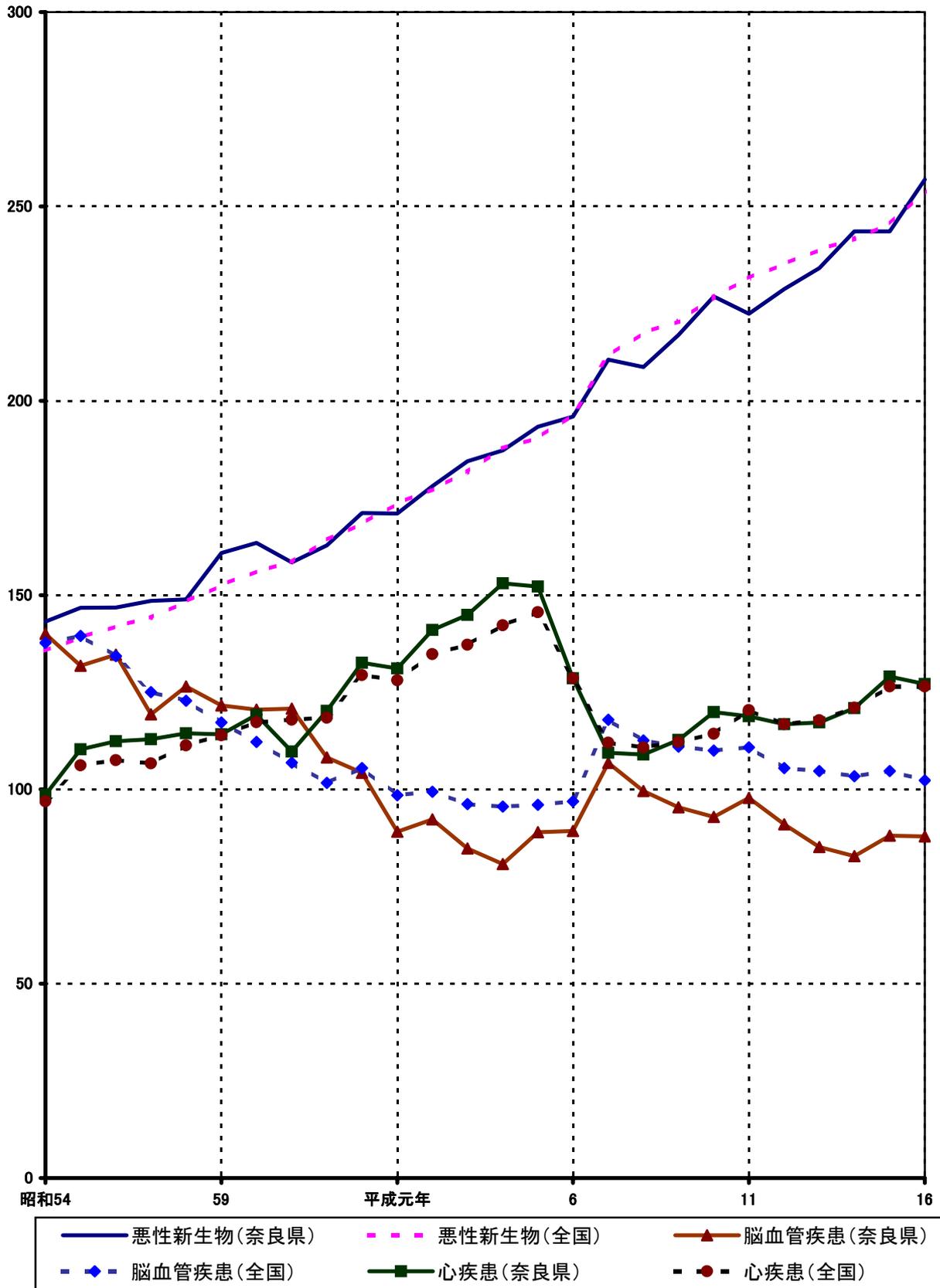


表7 死因別順位 年齢階級別

年齢	総数	第1位		第2位		第3位		第4位		第5位	
		死因	数	死因	数	死因	数	死因	数	死因	数
総数	11,124	悪性新生物	3,655	心疾患	1,809	脳血管疾患	1,251	肺炎	1,072	不慮の事故	398
0歳	41	循環器系の先天奇形	9	周産期に特異的な呼吸障害及び心血管障害/不慮の事故	各4						
1～4	11	不慮の事故	4	心疾患	2						
5～9	12	不慮の事故	4	心疾患	2						
10～14	4	肺炎	2	不慮の事故 悪性新生物	各1						
15～19	20	不慮の事故 自殺	各6	—		悪性新生物	5				
20～24	41	自殺	21	不慮の事故	12						
25～29	44	自殺	15	不慮の事故 悪性新生物	各8	—		心疾患	5		
30～34	55	自殺	24	不慮の事故	6	心疾患 悪性新生物	各5	—		脳血管疾患	2
35～39	89	悪性新生物	27	自殺	19	不慮の事故	14	心疾患	9	肝疾患 脳血管疾患	各4
40～44	102	悪性新生物	32	自殺	15	心疾患 不慮の事故	各13	—		肝疾患	6
45～49	143	悪性新生物	60	自殺	25	心疾患	18	不慮の事故	11	脳血管疾患	6
50～54	282	悪性新生物	129	心疾患	36	自殺	29	脳血管疾患	19	不慮の事故	10
55～59	445	悪性新生物	220	心疾患	54	自殺	38	脳血管疾患	32	不慮の事故	16
60～64	693	悪性新生物	371	心疾患	81	脳血管疾患	56	不慮の事故	33	自殺	32
65～69	868	悪性新生物	437	心疾患	110	脳血管疾患	59	肺炎	29	不慮の事故	28
70～74	1,237	悪性新生物	607	心疾患	162	脳血管疾患	101	肺炎	69	不慮の事故	31
75～79	1,610	悪性新生物	603	心疾患	246	脳血管疾患	190	肺炎	139	不慮の事故	50
80～84	1,752	悪性新生物	527	心疾患	318	脳血管疾患	219	肺炎	199	不慮の事故	53
85～89	1,737	悪性新生物	370	心疾患	332	脳血管疾患	257	肺炎	248	腎不全	49
90～	1,938	心疾患	413	肺炎	338	脳血管疾患	301	悪性新生物	250	老衰	182
(再掲)											
65～	9,142	悪性新生物	2,794	心疾患	1,581	脳血管疾患	1,127	肺炎	1,022	不慮の事故	256
80～	5,427	悪性新生物	1,147	心疾患	1,063	肺炎	785	脳血管疾患	777	老衰	247

②悪性新生物による死亡

悪性新生物による死亡数は26年連続第1位の3,655人で前年の3,478人より177人増加し、死亡率（人口10万対）は前年より増加し256.9で、全死亡者数の32.9%を占めています。（図4・表6）

なお、悪性新生物による死亡率は全国第32位です。（数値の高い順）

部位別にみると、「気管・気管支及び肺」が第1位で746人（悪性新生物全体の20.4%）でした。第2位が「胃」で637人（同17.4%）でした。第3位は「肝及び肝内胆管」で418人（同11.4%）と上位3位までで全体の約半数を占めています。（図6・表8）

なお、上位3位の死亡率の年次推移は、図7のとおりです。

図6 がん死亡部位別分類

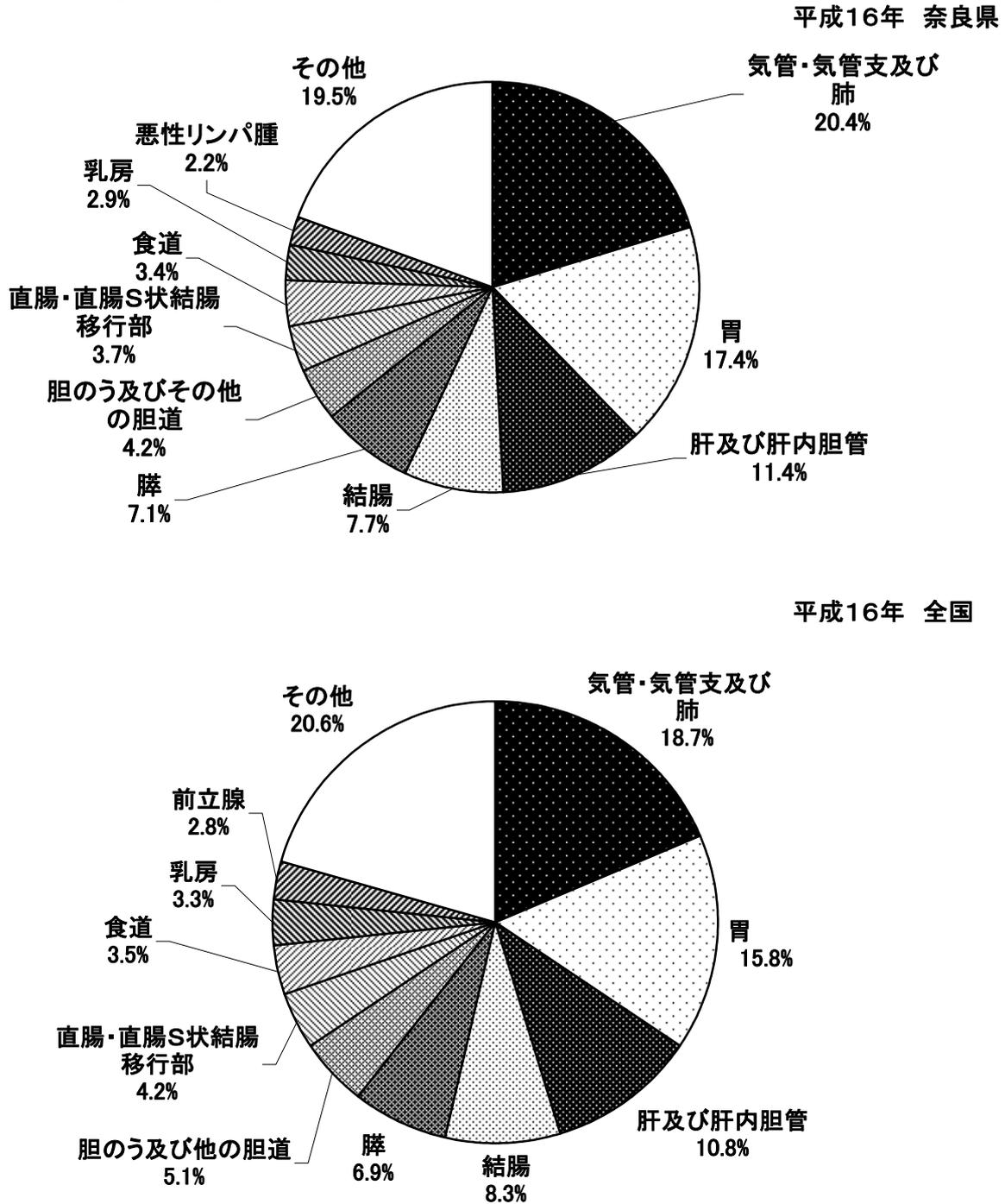


表8 悪性新生物による死亡順位

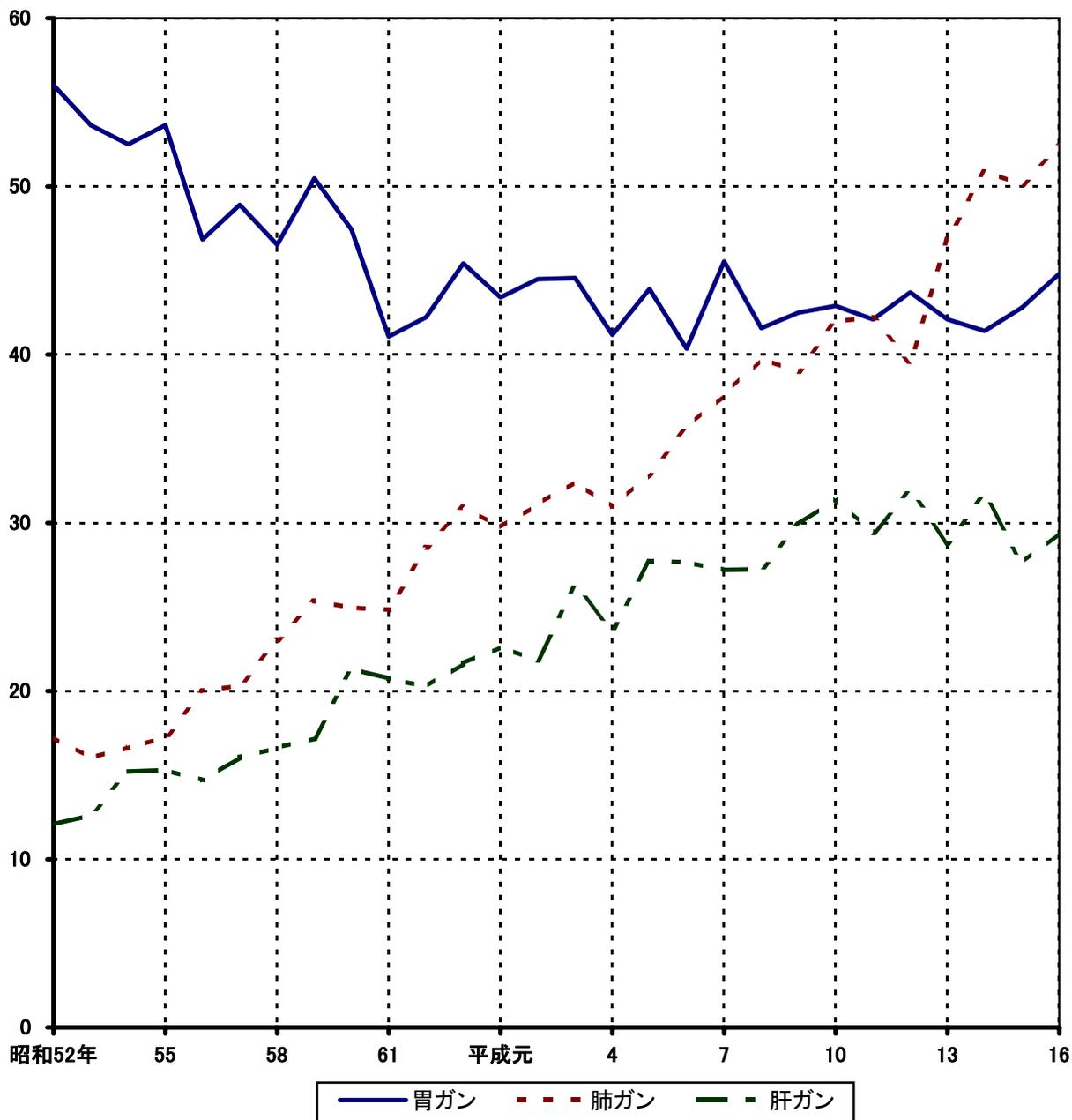
奈良県 平成16年

順位	総計			男			女		
	部位	死亡数	割合 %	部位	死亡数	割合 %	部位	死亡数	割合 %
		3,655	100.0%		2,255	100.0%		1,400	100.0%
1	気管、気管支及び肺	746	20.4%	気管、気管支及び肺	573	25.4%	胃	216	15.4%
2	胃	637	17.4%	胃	421	18.7%	気管・気管支及び肺	173	12.4%
3	肝及び肝内胆管	418	11.4%	肝及び肝内胆管	294	13.0%	結腸	148	10.6%
4	結腸	283	7.7%	膵	151	6.7%	肝及び肝内胆管	124	8.9%
5	膵	259	7.1%	結腸	135	6.0%	膵	108	7.7%
6	胆のう及びその他の胆道	153	4.2%	食道	100	4.4%	乳房	106	7.6%
7	直腸S状結腸移行部及び直腸	136	3.7%	直腸S状結腸移行部及び直腸	83	3.7%	胆のう及びその他の胆道	85	6.1%
8	食道	125	3.4%	前立腺	79	3.5%	子宮	59	4.2%
9	乳房	106	2.9%	胆のう及びその他の胆道	68	3.0%	直腸S状結腸移行部及び直腸	53	3.8%
10	悪性リンパ腫	81	2.2%	膀胱	41	1.8%	卵巣	48	3.4%
	その他	711	19.5%	その他	310	13.7%	その他	280	20.0%

全国 平成16年

順位	総計			男			女		
	部位	死亡数	割合 %	部位	死亡数	割合 %	部位	死亡数	割合 %
		320,358	100.0%		193,096	100.0%		127,262	100.0%
1	気管・気管支及び肺	59,922	18.7%	気管・気管支及び肺	43,921	22.7%	胃	17,711	13.9%
2	胃	50,562	15.8%	胃	32,851	17.0%	気管・気管支及び肺	16,001	12.6%
3	肝及び肝内胆管	34,510	10.8%	肝及び肝内胆管	23,421	12.1%	結腸	13,167	10.3%
4	結腸	26,472	8.3%	結腸	13,305	6.9%	肝及び肝内胆管	11,089	8.7%
5	膵	22,260	6.9%	膵	11,933	6.2%	乳房	10,524	8.3%
6	胆のう及び他の胆道	16,359	5.1%	食道	9,405	4.9%	膵	10,327	8.1%
7	直腸・直腸S状結腸移行部	13,570	4.2%	前立腺	8,840	4.6%	胆のう及び他の胆道	8,883	7.0%
8	食道	11,172	3.5%	直腸・直腸S状結腸移行部	8,530	4.4%	子宮	5,525	4.3%
9	乳房	10,609	3.3%	胆のう及び他の胆道	7,476	3.9%	直腸・直腸S状結腸移行部	5,040	4.0%
10	前立腺	8,840	2.8%	悪性リンパ腫	4,798	2.5%	卵巣	4,420	3.5%
	その他	66,082	20.6%	その他	28,616	14.8%	その他	24,575	19.3%

図7 悪性新生物の主な部位別死亡率年次推移（人口10万対）（昭和52年～平成16年）



### ③乳児死亡

乳児の生存は、母体の健康状態・養育条件等の影響を強く受けるため、その地域の衛生状態の良否、ひいては生活水準を反映する指標の一つとされています。生後1年未満の死亡を乳児死亡といい、乳児死亡率は、昭和22年の91.1（出生千対）を最高として以後著しく改善され、平成13年は3.4、平成14年は2.6、平成15年は2.7となっており、平成16年は前年より増加し、3.5でした。（図8）

なお、乳児死亡率は全国第3位です。（数値の高い順）

これを生存期間別にみると、生後4週未満の死亡（新生児死亡）率は1.5（出生千対）で43.9%を占めています。さらにそのうち生後1週間未満の死亡（早期新生児死亡）率は1.0（出生千対）で29.3%を占めています。（表9）

また、死亡順位でみると、第1位は「循環器系の先天奇形」で9人で、そのうち「心臓の先天奇形」が7名を占めています。（表7）

### ④周産期死亡

周産期死亡数（妊娠22週以後の死産及び生後1週未満の死亡の合計）は62人で、周産期死亡率は5.3（出生千対）でした。年次推移をみると、平成6年以降わずかに増加傾向にあり、平成9年には死亡率7.5でした。その後は増減を繰り返しており、平成16年は前年の48人より14人増加しています。

図8 乳児死亡率の年次推移(昭和34年～平成16年)

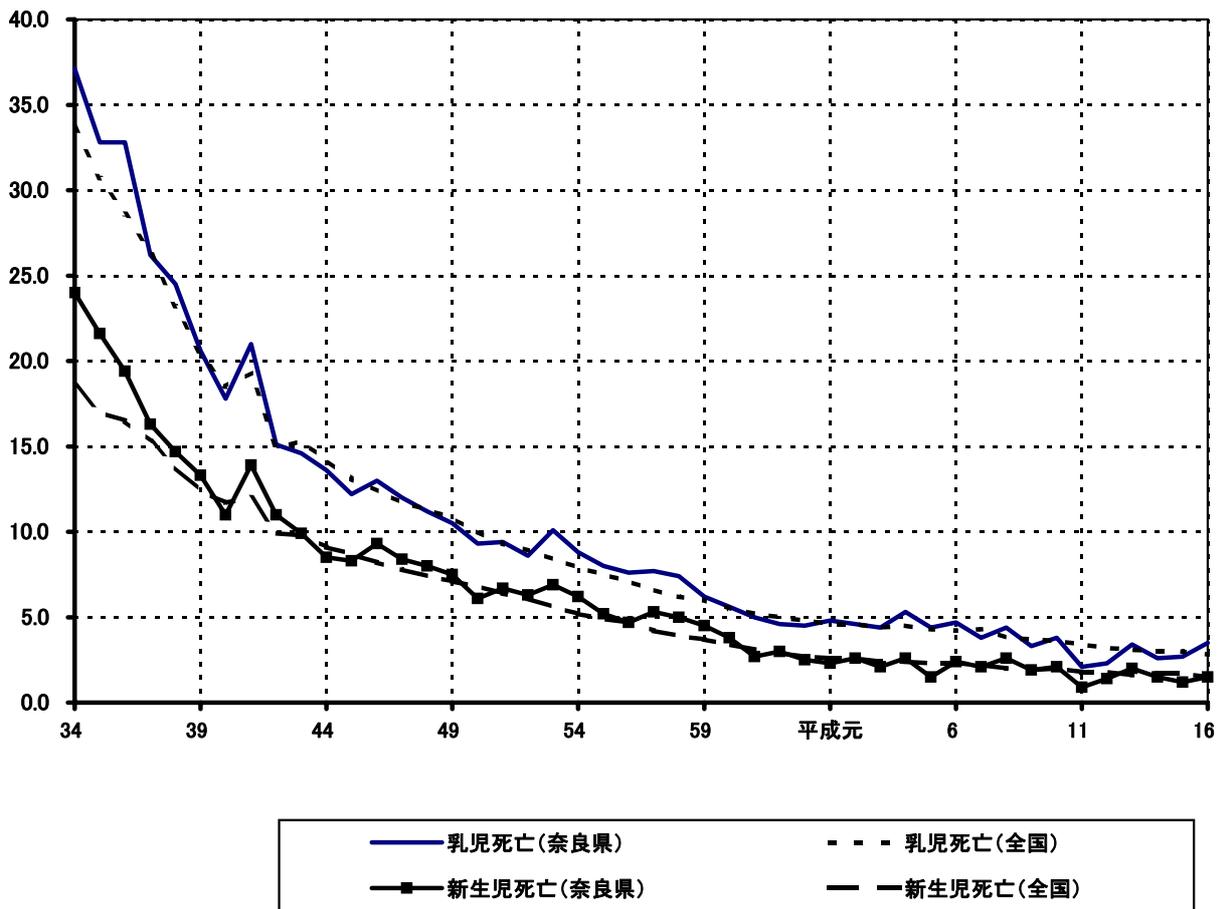
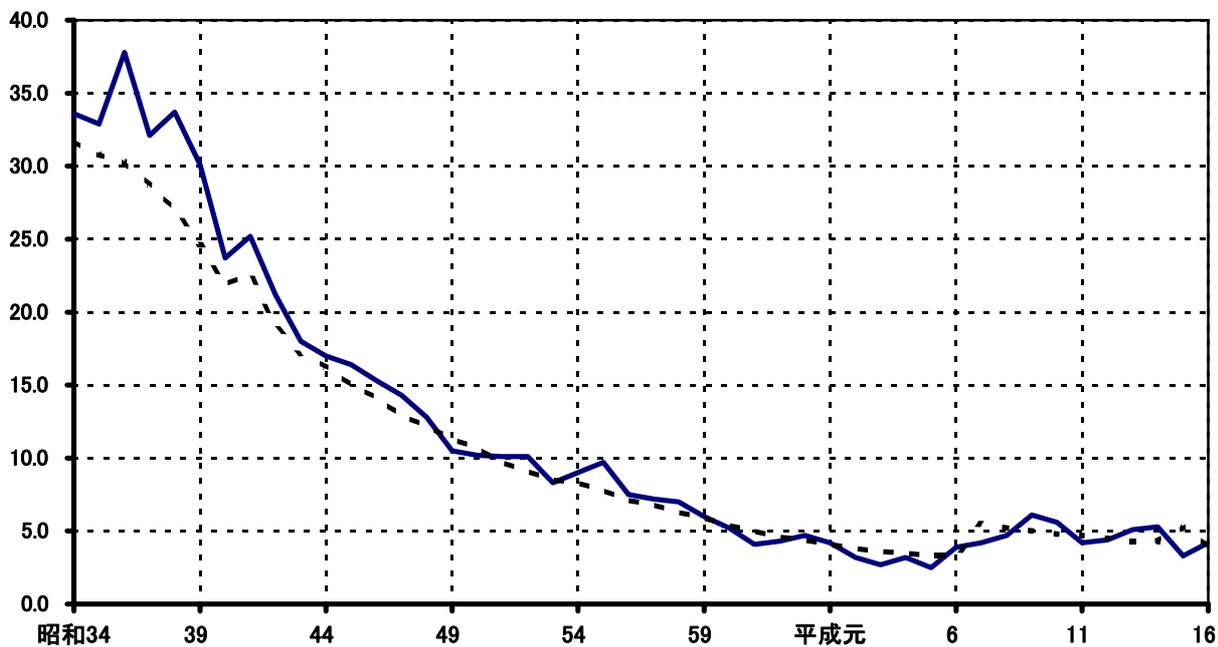


表9 乳児死亡の年次推移

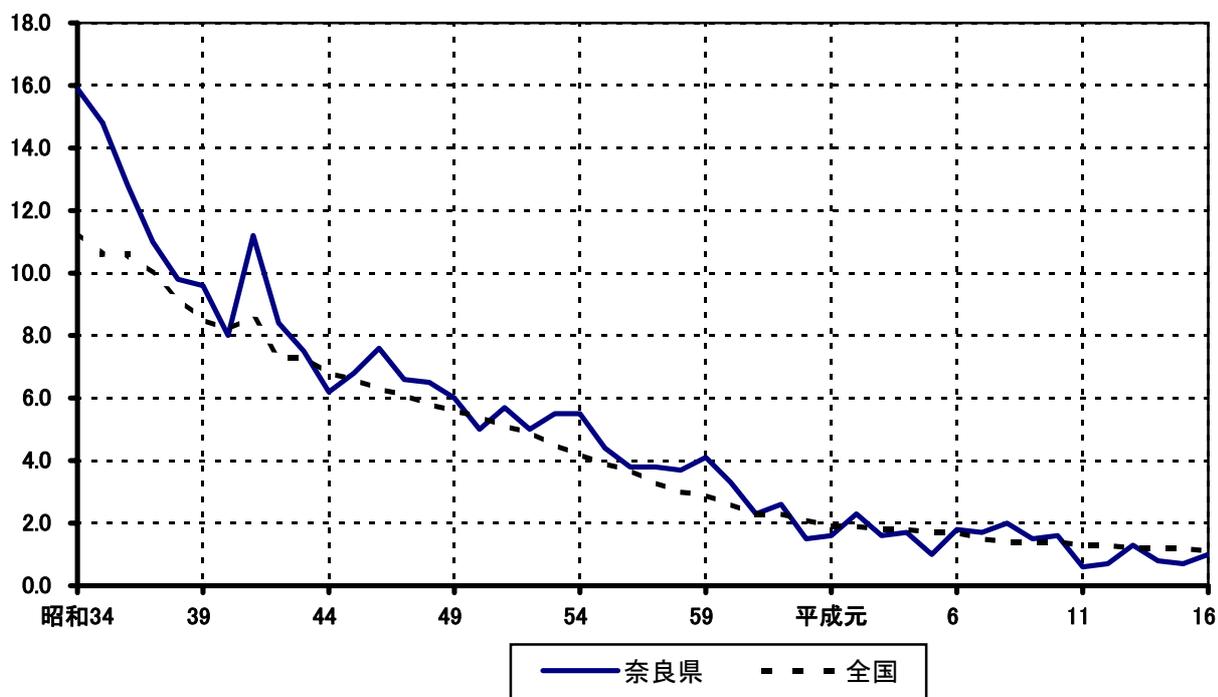
年次	乳児死亡率 (出生千対)	総死亡中 乳児死亡の 占める割合 (%)	新生児 死亡率 (出生千対)	乳児死亡中 新生児死亡 の占める 割合 (%)	早期新生児 死亡率 (出生千対)	乳児死亡中 早期新生児 死亡の占め る割合 (%)
45	12.2	3.1	8.3	67.8	6.8	55.6
50	9.3	2.4	6.1	65.9	5.0	54.0
55	8.0	1.7	5.3	66.9	4.4	55.4
60	5.6	1.0	3.8	68.3	3.3	59.8
61	5.0	0.9	2.7	63.4	2.3	45.2
62	4.6	0.8	3.0	65.6	2.6	56.3
63	4.5	0.7	2.5	54.7	1.5	32.8
元	4.8	0.8	2.3	48.4	1.6	34.4
2	4.6	0.7	2.6	57.4	2.3	49.2
3	4.4	0.6	2.1	46.6	1.6	36.2
4	5.3	0.8	2.6	48.6	1.7	31.4
5	4.4	0.4	1.5	33.9	1.0	23.7
6	4.7	0.7	2.4	51.6	1.8	39.1
7	3.8	0.5	2.1	54.9	1.7	45.1
8	4.4	0.6	2.6	58.3	2.0	46.7
9	3.3	0.4	1.9	56.8	1.5	45.5
10	3.8	0.5	2.1	55.8	1.6	42.3
11	2.1	0.3	0.9	42.8	0.6	66.7
12	2.3	0.2	1.4	63.3	0.7	30.0
13	3.4	0.4	2.0	60.5	1.3	39.5
14	2.6	0.3	1.5	59.4	0.8	31.3
15	2.7	0.3	1.2	45.5	0.7	24.2
16	3.5	0.4	1.5	43.9	1.0	29.3

図9 周産期死亡率の年次推移(昭和34年～平成16年)

妊娠満22週以降の死産(出産千対)



早期新生児死亡率(出生千対)



(3) 死産（死産数は減少）

死産（妊娠満12週以降の死児の出産）数は333胎で、前年の378胎より45胎減少しました。このうち、自然死産は152胎、人工死産は181胎でした。

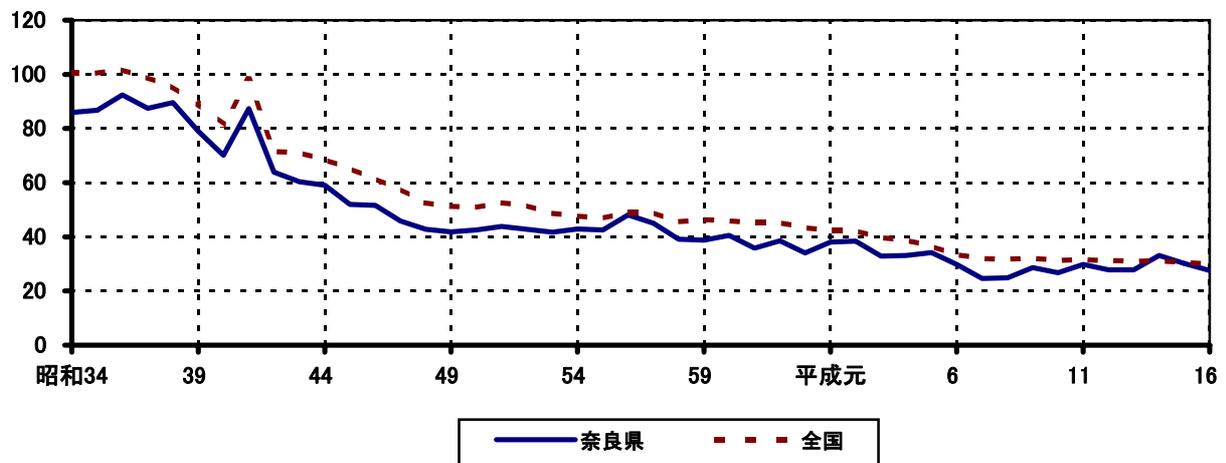
死産率（出産（出生＋死産）千対）は27.6で、前年の30.2を2.6下回りました。死産率の年次推移は図10のとおりです。なお、死産率の全国順位は第34位です。（数値の高い順）

死産率を母の年齢階級別にみると、15歳未満で1000.0と高い率を示し、30～34歳が18.7と最低率を示しています。（表10）

妊娠期間別にみると、満24週までで全体の86.7%を占めています。（表11）

図10 死産率の年次推移(昭和34年～平成16年) (出産千対)

死産率



人工死産率

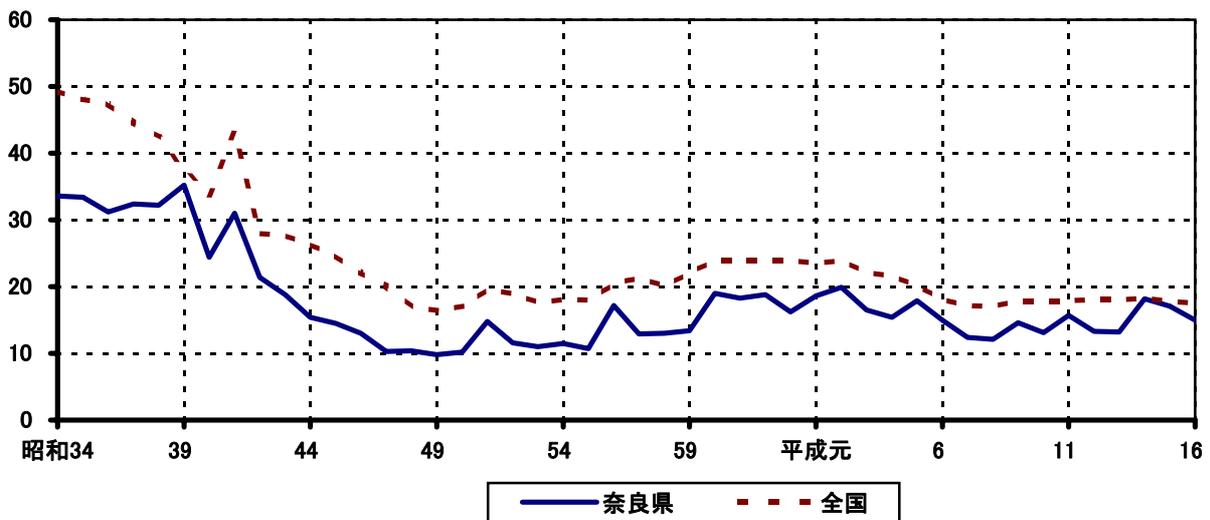


表10 死産数・率（出産千対） 母の年齢階層別

平成16年

母の年齢	死産 総数		自然 死産		人工 死産		出産数
	数	率	数	率	数	率	
総 数	333	27.6	152	12.6	181	15.0	12,082
～14	1	1,000.0	0	0.0	1	1000.0	1
15～19	49	231.1	8	37.7	41	193.4	212
20～24	62	46.9	19	14.4	43	32.5	1,322
25～29	76	19.4	36	9.2	40	10.2	3,918
30～34	90	18.7	57	11.9	33	6.9	4,809
35～39	48	29.2	30	18.3	18	11.0	1,642
40～44	6	34.9	1	5.8	5	29.1	172
45～49	1	166.7	1	166.7	0	0.0	6
50～	—	—	—	—	—	—	—
不 詳	—	—	—	—	—	—	—

表11 妊娠期間別死産数と割合

平成16年

	死産 総数		自然 死産		人工 死産	
	数	割合	数	割合	数	割合
総 数	333	100.0	152	100.0	181	100.0
満12～15週	140	42.0	45	29.6	95	52.5
16～19	105	31.5	43	28.3	62	34.3
20～23	44	13.2	20	13.2	24	13.3
24～27	8	2.4	8	5.3	—	—
28～31	6	1.8	6	3.9	—	—
32～35	11	3.3	11	7.2	—	—
36～39	15	4.5	15	9.9	—	—
40～	4	1.2	4	2.6	—	—
不 詳	—	—	—	—	—	—

#### (4) 婚姻と離婚（婚姻数・離婚数ともに減少）

婚姻数は7,157件で、前年の7,320件より163件減少し、婚姻率（人口千対）は、5.0で前年の5.1を0.1下回りました。（表1）なお、婚姻率は高い順から全国第34位です。

婚姻率は、第二次大戦後の昭和23年の13.0（人口千対）を最高に、以後低下傾向を続けましたが、昭和33年頃からは、増加の傾向を示し、昭和47・48年には1万組（婚姻率10.3、9.8）を突破しました。これは戦後のベビーブーム期に出生した人々が結婚期に入ったことによるものです。

その後婚姻件数、率とも低下し、昭和62年は7,101組、婚姻率5.3まで減少しましたが、昭和63年以降微増に転じ、平成7年には6.1となりました。その後は減少傾向になり、平成16年は5.0と3年連続で前年より減となりました。（図11）

平成16年に結婚生活に入った初婚夫妻の平均初婚年齢は、夫は29.5歳、妻は27.8歳で、前年と比較して夫婦とも0.2歳高くなりました。（表12）

離婚数は2,740件で、前年の2,955件より215件減少し、離婚率（人口千対）は1.93で、前年の2.07を0.14ポイント下回りました。（表1）なお、離婚率は高い順から全国第36位です。

離婚率は、昭和25年の1.06（人口千対）以降、低下傾向が続き、昭和37年には0.59と最低を示しましたが、その後、昭和59年まで上昇傾向を示しました。昭和60～63年に再び低下に転じたものの、それ以後再度上昇傾向を示し、平成7年には1.47となりました。平成8年は1.46と若干減少しましたが、平成9年以降は増加し、平成14年は2.10と過去最高を更新しましたが、平成15年以降2年連続で減少しています。（図12）

これを同居期間別でみると、5～10年が一番多く、次いで20年以上の順になっています。（表13）

図11 婚姻率の推移(昭和31年～平成16年) (人口千対)

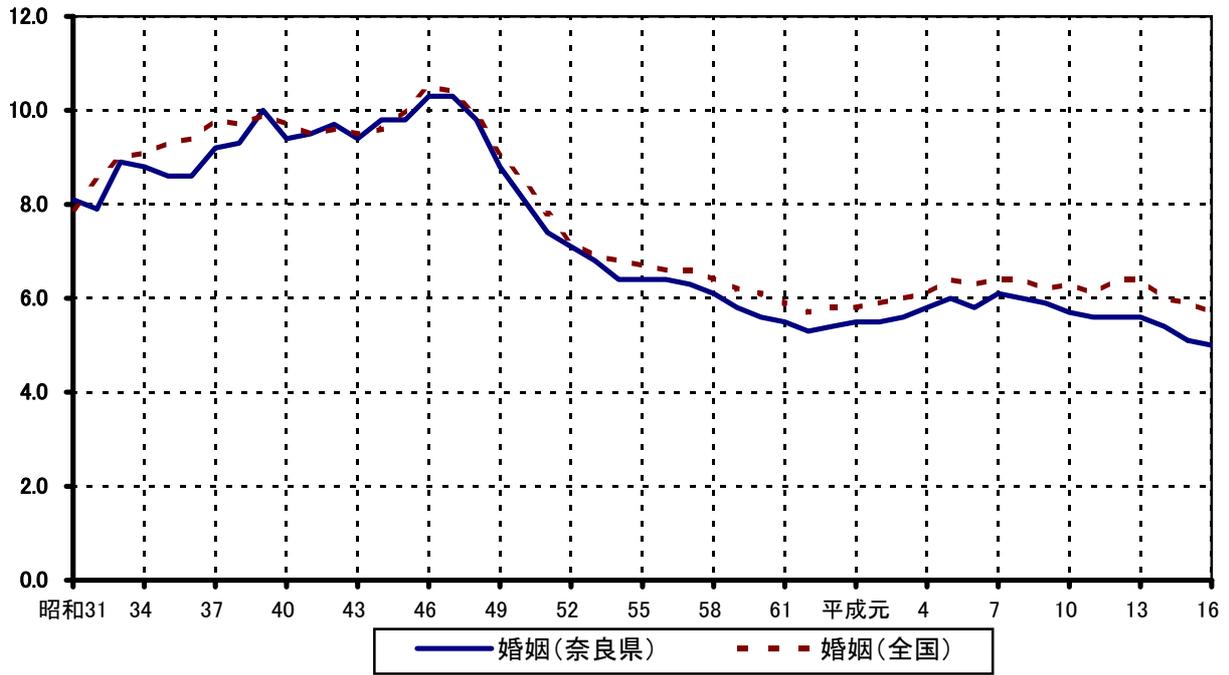


図12 離婚率の推移(昭和31年～平成16年) (人口千対)

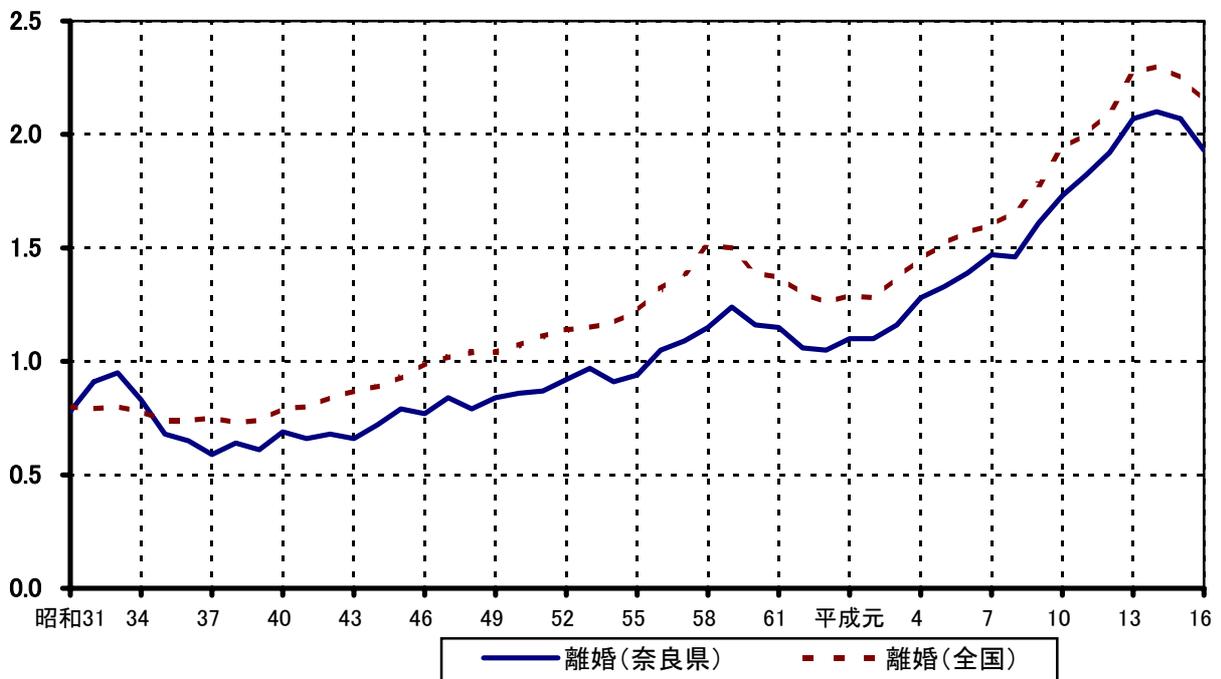


表12 平均初婚年齢

年次	奈良県		全国	
	夫	妻	夫	妻
昭和45	27.1	24.1	26.9	24.9
50	27.0	24.7	27.0	24.7
55	27.9	25.2	27.8	25.2
60	28.1	25.3	28.2	25.5
61	28.4	25.4	28.3	25.6
62	28.4	25.6	28.4	25.7
63	28.3	25.5	28.4	25.8
平成元	28.4	25.6	28.5	25.8
2	28.3	25.7	28.4	25.9
3	28.5	25.9	28.4	25.9
4	28.4	26.1	28.4	26.0
5	28.6	26.1	28.4	26.1
6	28.4	26.1	28.5	26.2
7	28.3	26.1	29.7	27.2
8	28.4	26.3	28.5	26.4
9	28.5	26.5	28.5	26.6
10	28.4	26.6	28.6	26.7
11	28.4	26.8	28.7	26.8
12	28.3	26.7	28.8	27.0
13	28.9	27.2	29.0	27.2
14	29.1	27.3	29.1	27.4
15	29.3	27.6	29.4	27.6
16	29.5	27.8	29.6	27.8

表13 離婚数 同居期間・夫婦の親権の子の数別

同居期間	総数	0	1人	2人	3人	4人	5人	6人	7人	8人
総数	2,740	1,069	761	699	188	20	2	1	0	0
1年未満	147	74	57	14	2	—	—	—	—	—
1—2年	174	83	77	13	1	—	—	—	—	—
2—3年	149	71	61	15	2	—	—	—	—	—
3—4年	147	59	70	17	1	—	—	—	—	—
4—5年	173	58	64	42	7	2	—	—	—	—
5—10年	532	151	145	199	33	4	—	—	—	—
10—15年	331	66	60	137	58	8	1	1	—	—
15—20年	249	52	42	102	49	3	1	—	—	—
20年以上	399	269	70	51	8	1	—	—	—	—
不詳	439	186	115	109	27	2	—	—	—	—